

# みんなのひろば



▲スポーツの秋、ニュースポーツやダンスなど24種目の競技が行われた「埼玉県レクリエーション大会inとほろざわ」。皿回しも競技の一つです。うまく回せるかな？  
9月26日(日)／市民体育館ほか  
(撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎)

▼bjリーグ2010-2011が開幕。勝利でスタートとした埼玉ブロンコス。今年はプレーオフ進出が目標！  
10月16日(土)／市民体育館  
(撮影：市民カメラマン・八木豪彦)



## とほろざわまつり

10月9日(土)の前日祭は、あいにくの雨。10日(日)は前日からの雨が、開会式とともにあがりました。中央区には2日間で34万人の人が訪れ大賑わいでした。



▲12基の山車が5年に一度勢ぞろい。まつりのフィナーレは元町交差点で7基の山車がそろうてひっかわせ。  
(撮影：市民カメラマン・池田敏明)



▼朝の雨が晴天に。よさこいパレードの熱気が雨雲を吹き飛ばした模様。(撮影：市民カメラマン・木村清貴)



◀今年の民踊流しは「所沢市民音頭」と「所沢音頭」。来年は皆さんも一緒に踊りませんか？  
(撮影：市民カメラマン・塩野入好文)

## 目指せ 低炭素化! 温暖化をとめよう



### 地域の恵みを地域で食べよう

所沢は、サトイモ、ニンジン、ホウレンソウなどの県内有数の生産地で、ブドウやナシなどの観光農園も数多くあり、狭山茶は全国ブランドとなっています。地域の恵みを地域で食べて、低炭素化を目指しましょう。

#### ◆地産地消を!

地域で採れた農産物は、生産者の顔が見える安心・安全な食べ物です。採れたてのものは栄養分が失われず健康に良いものです。地産地消は、季節の旬なものを新鮮なうちに美味しく味わうことができ、また、地域のもので多く消費されることで地域が豊かに元気になります。所沢産の農産物は、農産物直売所とことま市、市内各所の農産物直売所、スーパーマーケットの地産産コーナーなどにあります。お買い物に行くときは、マイバッグ持参で、徒歩や自転車、ところバスなどの公共交通機関を利用しましょう。



▲所沢産農産物消費拡大オリジナルシール

#### ◆フード・マイルージ!

フード・マイルージとは、食料が生産地から食卓まで輸送される距離のことです。輸送距離が短い食品は、輸送にかかるエネルギーが少なくて済み、温室効果ガスの削減につながります。海外から運ばれる食品は、エネルギーを多く使ってしまう。地域の恵みを地域で食べることで、低炭素化を目指しましょう。日本は多くの食料を輸入に頼っているためフード・マイルージが高くなっています。人口一人当たりのフード・マイルージ(2001年)は、日本が7,093 t kmなのに対し、韓国は6,637 t km、アメリカは1,051 t km、イギリスは3,195 t kmなどとなっており、日本が最も高くなっています。

t km (トンキロメートル) … 食料輸入量 (t) × 輸出国からの輸送距離 (km)

所沢市はチャレンジ25キャンペーンに参加しています  
問い合わせ 環境総務課 2998-9133 2998-9394



## とほろざわ 野老っ子



皆さん、所沢の民話や伝説をいくつか知っていますか？昭和48年に発行された『とほろざわのふるさと散歩』には、柳瀬川のお話「かっぱのわび証文」や「三つ井戸」「滝の城の巻」など所沢にまつわるお話が収められています。今回は、この本にも掲載されている「あっちいちの新光寺」の舞台である新光寺(宮本町)の近くにお住まいで、所沢の昔話を高齢者施設や市内各施設などに出かけ話している鈴木征子さんをご紹介します。

鈴木さんが昔話を語り始めたきっかけは、高齢者大学で所沢の昔話を調べたお話を、野老澤町造商店のボランティアとして話したのがはじまりです。「当時は、本の通りまちがえずにお話をしようと思っていただけ」と振り返ります。今では「聞いてくれる人に少しでも楽しんでほしい」との思いから『テレックテンテン〜』のリズムとともにお茶の淹れ方をしながら着物を着て踊りながら登場し、客席を回り握手をしてお話を始めます。

そんな鈴木さんは『あっちいちの新光寺』で「親切でお人よしの和尚さんが、囲炉裏にあった熱く焼けた石を狸に投げつけるなんて、つじつまが合わない話だな」と思っていました。あるとき偶然にも趣味の俳句で和尚さんが投げた『石』は、俳句の季語で『温石』といひ、

## 民話を通じて昔の知恵を後世に語り継ぎたい

鈴木 征子さん(宮本町在住)

昔は囲炉裏で焼いた石を布で包み湯たんぽ代わりにしていたものを知りました。それからは、知れた知識や昔の生活習慣を知っている方を訪ねて聞いたことをお話に変え「その時代の人の気持ちになり、その時代の生活の様子や何えるように分かりやすく伝えることがなによりも大事」と感じたそうです。お話をすることで昔の人の生活の苦労を知った鈴木さんは「今の生活は便利になりすぎた分、温石など忘れ去られようとしているものがたくさんある。現在のように便利な生活ができるのは昔の人が努力したから出来ている」と気づき「昔の人に感謝しながら後世に語り継いでいきたい」と言います。

お話の後は鈴木さんのオカリナの演奏に合わせて、みんなで「ふるさと」や「茶摘み」などを歌います。「話は、決して上手ではないけれど、聞いてくれた人が、喜んでくれることが私の喜び。喜んでくれた人から元気をもらっています」と笑顔で話をしてくれました。



▲お茶淹れのお面をしながら着物を着て登場した鈴木さん

## とほろざわ 歴史まめ知識

所沢市域にかかわる歴史的事項を50音順に紹介しています。今号は「き」です。

**北野天神社** 小手指元町にある市内有数の古社。「物部天神社」および「国清地祇神社」と「天満天神社」の3つを総称した神社です。物部天神社は古代の豪族であった物部氏の祖先神がまつられた神社で、国清地祇神社とともに平安時代の初期には、すでにまつられていました。その後、菅原道真の後裔で、武蔵国司をつとめた菅原成成が京都の北野天満宮から勧請して、2社と一っしょに天満天神社をまつり、今日にいたっています。

**求友館** 明治22年(1889)、自由民権運動が全国的に高まったころ、所沢の支持者らが政治的社交の場として建てた集会場。現在の元町東公民館にあたり、建物内部は今もほとんど当時のままです。政治結社を組織した斎藤と次郎次郎の有力者は、ここを拠点に活動しました。勝海舟に揮毫を依頼した「求友館」の額が現在も大切に保管されています。



▲現在の求友館(元町東公民館)

**行政道路** 南住吉から宮本町交差点を経て、東狭山ヶ丘・入間市方面へ向かう道路の通称です。呼び名は、第二次世界大戦後の昭和27年(1952)に、日米安全保障条約第3条に基づいて調印された「行政協定」により整備されたことに由来します。所沢基地と豊岡町(現入間市)のジョンソン基地とを結ぶ経路のうち、南住吉を通る部分は新設された道路ですが、宮本町交差点から入間市方面へ向かう道(現国道463号線)は、秩父道(江戸道)と呼ばれた古道を整備したものです。

問い合わせ 生涯学習推進センターふるさと研究 2991-0308 2991-0309

## 誰でも エッセイ

◆テーマ「応援団」 ◆所沢をもっと盛り上げたい

北有楽町 加納知明  
ここ数年は都内に住んでいました。夏に所沢に戻ってきました。生まれも育ちも所沢で、とても愛着のあるふるさとです。この広報とほろざわがポストに届けられるようになってから、毎月とても楽しみにして、所沢のみなが元気に活動されている様子を楽しみ、そしてとても嬉しくもあります。以前から「この所沢をもっと盛り上げていかなければならぬ」と考えてはいるものの、もっぱらいい案も浮かばない毎日ですが、まずは私もみなさんと一緒にこの所沢を盛り上げていく「応援団」として、この街の良し所をどんどん発見していきたいと思っています！

## 応援団の皆様へ感謝

若狭 伊藤佳子  
10月1日は夫の命日だ。今日は「郡民の日」で子どもの学校が休みだから、一緒に香を手向けに行くところ娘から電話があった。「こんな可愛い初孫を見ずに逝って。もう8歳の少年になったよ」  
夫の死は自動車事故だった。平成3年の事なのに私には昨日の様に思えてならない。同じ職業の仲間、大学の同窓生等からの輸血の申し出は、300人は超えていた。皆さんは夫のことで頭が一杯で、仕事どころではなかったと思う。応援団の言葉を使えば失礼だが、夫を助けようという家族にとっては、温かく、善意的な応援団でした。夫は皆に愛されながらもその気持ちに報いることはできず、私と3人のわが子は、今度は何らかの形で誰かの善意の応援団にならなければいけない。

